夢 駒澤会だより
第１８号
２０１２年１２月１９日
駒澤大学駒澤会発行

開校１３０周年を迎えて

総長　田中 良昭

今年の平成２４年（２０１２）は、本学の設立母体である曹洞宗が、宗門僧侶の養成機関として明治１５年（１８８２）に麻布北日ヶ窪に新たな土地を購入して新校舎を建て、１０月１５日に「曹洞宗大学林専門学本校」の開校式典を挙行してからちょうど１３０周年にあたり、既に１０月１５日に深沢キャンパスでその記念式典と祝賀会を開催したところです。しかしそのルーツをたどれば、今から４２０年を遡る戦国末期の文録元年（１５９２）以前に、当時駿河台（するがだい）にあった曹洞宗の名刹吉祥寺の境内に設立された「吉祥寺会下（えか）学寮」と名付けられた「学林」にまで遡ります。この「学林」は明暦３年（１６５７）の江戸の大火後に吉祥寺の移転と共に駒込に移りますが、その頃中国から来日した名僧の陳道栄（ちんどうえい）により、「旃檀林（せんだんりん）」と命名され、これが昭和５年（１９３０）に制定された北原白秋作詩、山田耕筰作曲の「駒澤大学校歌」にも歌われています。

明治１５年（１８８２）に麻布に新設された「曹洞宗大学林専門学本校」は、その後の政府の教育制度改革に伴い、明治３２年（１８９９）に私立学校令により「曹洞宗大学林」に、更に明治３８年（１９０５）に専門学校令により「曹洞宗大学」と名称を変えています。しかし、校地の狭隘から、大正２年（１９１３）に現在地の駒沢に移転し、大正１４年（１９２５）に大学令による「駒澤大学」へと発展し、仏教、東洋、人文の三学科からなる文学部に予科と専門部を備えた単科大学として、広く門戸を開放したのです。こうして昭和２０年（１９４５）の終戦まで続きますが、戦後の教育改革により、昭和２４年（１９４９）に仏教、文学、商経（現経済）の３学部９学科の新制大学として再スタートをきり、昭和３９年（１９６４）の法学部、昭和４４年（１９６９）の経営学部、更に平成に入ってから平成１５年（２００３）の医療健康科学部、平成１８年（２００６）のグローバル・メディア・スタディーズ学部の増設等により、現在では７学部１７学科、法科大学院を含む大学院７研究科からなる総合大学として発展し、駒沢、深沢、玉川の３つのキャンパスと、祖師谷の野球部の合宿所とグランド、駒沢公園南の仏教研修館竹友寮と国際交流館のすべてを東京の一等地といわれてる世田谷区内に持つ絶好の教育環境を誇っているのです。

このように本学は、長い歴史と輝かしい伝統を築き上げてきましたが、その根底にあるのが仏教の教えと禅の精神に基づく建学の理念であり、特色ある大学として更なる発展が期待されていているのです。

奨学金授与式について

総　　額：５００万円（一人２０万円×２５名）
目　　的：学業奨励
対象学生：学部２年生以上

平成２４年7月１８日（金）１６：２０から本部棟５階にて、奨学金授与式が執り行われました。学生の皆さんと駒澤会からは森屋会長・田中副会長・三崎副会長が出席しました。

森屋会長より駒澤会のあゆみが紹介され、学生への励ましの言葉が述べられました。「駒澤会は昭和４６年１０月に発足し、奨学金の制度を確立しました。昨年は創立４０周年を迎え、今年度は累計で１，０１０名の学生に奨学金を授与することができました。これからは心の時代、人にどれだけやさしくできるか。奨学金は有意義に使い、りっぱな社会人となり社会貢献をしていただきたいと願っています。本日はおめでとうございます。」（一部抜粋）

その後、森屋会長より一人一人の名前が呼ばれ、奨学金決定通知書が手渡されました。

受給生の言葉

文学部地理学科
地域文化研究専攻
４年　清田 朋子

この度は駒澤会奨学生に選んでいただき、誠にありがとうございます。私の日々の努力を高く評価していただきましたことを、大変光栄に思います。

私は何事にも誠実に取り組むという信条を胸に、大学生活を送ってきました。学業においても部活動においても、真剣に取り組むことが私にとっては当たり前のことでした。学業においては一つ一つの授業に一切手を抜かず取り組んだほか、課外ゼミ「北タイゼミ」の代表として研究活動を主導してきました。部活動でも、合唱団の会計として団の運営を支え、充実した大学生活を送ることができたと思っています。ロンドン五輪にて体操男子個人総合金メダルを獲得した内村航平選手は、金メダルについて「自分が自分であることの証明」と語っていましたが、私にとっては、奨学生に選ばれたことで、何事にも誠実に取り組む自分自身を証明することができたのです。

５月末に第一志望先より内々定を得ることができ、現在は集中して卒業論文に取り組んでいるところです。支給していただいた奨学金は卒業論文執筆のためのフィールドワークの費用に充てようと考えています。私の在籍する地理学科ではフィールドワークを重視しており、私自身この４年間で多くの現地調査を経て知識と見聞を深めてきました。私の研究テーマは「農家民宿にみる都市‐農村交流と地域活性化」であり、自らが農家民宿に宿泊して民宿経営者から深く話を聞いたり、農家の取り組みを体験したりしながら卒業論文の構想を固めていきたいと考えていますが、それには多くの費用が必要となります。奨学金を支給していただいたことで、納得のいくまでフィールドワークを実施することが可能となり、心より感謝しております。

質の高い卒業論文を執筆できるよう努め、最後まで学業にも部活動にも手を抜かず、残りの学生生活も自分らしく誠実に頑張って参ります。

受給生の言葉

医療健康科学部
診療放射線技術科学科
３年　守屋 駿佑

この度は駒澤会奨学生に採用していただきまして、誠にありがとうございます。また同時にこのような評価が得られたことを大変光栄に思います。

私は医療健康科学部に属しています。学校生活は想像以上に忙しく、実験レポートの作成やテスト勉強などがあると学ぶことの楽しさもありますが、さすがにつらいと感じるときもあります。しかし、このような環境が私を変え、現在のように駒澤会奨学生に採用されるまでに成長させたのではないかとも思います。周りには、向学心を持った友人や先輩方がいるため、常に高い目標を持つことができます。今年の春休みには海外の学会や病院見学をするきっかけを先生方につくっていただきました。さらに昨年には目標にしていた第一種放射線取扱主任者の試験合格も達成することができました。

当然、こういった貴重な経験をするのにもお金は必要であり、さらには他の学部と比べても授業料も高いため、両親への負担も心配でした。アルバイトをして少しでもその負担を減らそうにも、医療人を目指すだけあって、学校生活は多忙でその余裕はないため、今回採用という結果を受けてとても感謝しています。奨学金を受給することができたおかげで今まで以上に勉学に専念でき、様々なことに挑戦するチャンスをもらえました。

今後も、将来に向けてこの素晴らしい環境のなかで、今以上に勉学に励み貴重な経験ができたらと思います。また、たくさんの方に感謝の気持ちを忘れずに、駒澤会奨学生であるという自覚を持って努力を続けていきたいと思います。

受給生の言葉

文学部社会学科
社会福祉学専攻
２年　榊 理恵

この度は、駒澤会奨学生に選んでいただき誠にありがとうございます。昨年度の私の取り組みをこのようなかたちで評価していただき、大変光栄に思うとともに感謝しております。

私の両親は共働きで一生懸命働いてくれておりますが、この不況のため家計は大変苦しいのが現状です。その中でも私を進学させてくれました。感謝の気持ちとともに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

私は、社会福祉士の国家資格をとりたいという目標を持ちこの駒澤大学に入学しました。この目標を達成するためにも大学生活は勉学に励みたいと考えており、現在アルバイトを行っておりますが、勉強に差し支えない程度となっています。通学時間も２時間かかってしまうため、アルバイトと勉強の両立は大変難しいものです。１年生のときは単位数も多く、予習や復習、課題に追われ余裕がありませんでした。しかし、自分のやりたいことを学ばせていただいていることを嬉しく感じ、とても充実した日々を過ごしています。勉強をしていく中で、社会福祉士という仕事の難しさを感じ、まだまだ学ぶべきことがたくさんあると感じています。これからは興味のあったゼミや実習などが始まりますが、ボランティアなど、多くのことに積極的に挑戦し、自己の変革にも努めていきたいと考えています。

今回、駒澤会の奨学生として採用していただき心より感謝しております。自分の取り組んできたことに自信を感じることができました。奨学生に選ばれたという自覚を持ち、大学生活に悔いを残さぬよう、これからもより一層勉学に力をそそいで努力していきたいと思います。

井上顧問慰労会報告

総務部長　山田 直重

平成２４年７月１９日に、平成２２年度・２３年度会長を務められました井上顧問の慰労会が銀座「ＧＩＮＴＯ」にて開催されました。大谷哲夫前名誉会長と大学からは田中良昭名誉会長、清水文夫事務局長、岩根嶺雄教育振興部長がご参加くださいました。

井上顧問は、私が入会した平成２２年度に会長に就任されました。その後「初夏の親睦会（屋形船)」に始まり、「秋の研修会（永平寺一泊参禅会、日光・鬼怒川温泉)」や初の試みであった「駒澤会新年賀詞交歓会」、「駒澤会４０周年記念祝賀会」など大変お世話になりました。秋の研修会で井上顧問が作成してくださったクイズは非常に凝っていて参加者に大変好評でした。これらの行事全てが温厚闊達なお人柄により華やかに進行していました。

この２年間会長として駒澤会発展にご尽力いただきましてありがとうございました。これからも駒澤会をよろしくお願いいたします。

教育後援会との懇親会報告

教育後援会との懇親会報告

駒澤会
広報部長　荒井 喜久子

８月２３日１８：３０から三軒茶屋「銀座アスター」にて教育後援会と駒澤会の懇親会が開催されました。教育後援会からは１０名の方が参加されました。

駒澤会からは会長、副会長、監査と総務部、広報部、厚生部の部長・副部長が参加しました。

教育後援会出席者に駒澤会が駒澤大学の重要な役割を担い、毎年２５名の学生に奨学金を給付し、今年で１，０１０名の学生に授与してきたこと。駒澤会だよりを発行し、全国の駒澤会会員に配布し、会員相互の近況を知らせていること。年間の行事や活動がスムーズに行われるよう努め、さらに会員間の親睦をはかっていることなどの説明をしました。

教育後援会出席者にぜひ駒澤会に入会し、活躍して頂きたいと訴え、楽しく語らいができました。

駒澤会との懇親会に参加して

教育後援会
副会長　堀 純一郎

教育後援会のＯＢ、ＯＧで構成される駒澤会の皆様は、教育後援会の委員の皆さん以上にエネルギッシュで、かつ、魅力的な方々であることを実感いたしました。

駒澤大学で学ぶ我が子の成長を祈るとともに、両組織が手を取り合って駒澤大学のさらなる発展のために応援していこうという思いを強くした次第です。

懇親会を企画していただいた駒澤会の皆様に、教育後援会出席者を代表して御礼申し上げます。

秋の研修会報告

厚生部　市川 よし子

９月の末だというのに　まだ暑い日が続く９月２９日（土）から３０日（日）にかけて熱海の癒し「新かどや」に於いて「秋の研修会」が行われました。厚生部３名と役員他３名のご協力も頂いて集合し、２次会３次会用の飲み物等の買い物を済ませ、一路熱海へ。

山の上にある「新かどや」は、南館が故鳩山一郎氏の別荘あとを改築した建物だそうで、趣のある古き良き時代を彷彿とさせる佇まいです。古さはあるものの、各部屋は次の間のついたゆったりした造りで、部屋がちょっと入り組んでいるのは、どのお部屋からも海が眺められるようにとの配慮からのものだそうです。

皆様の到着を待ち、受付の後１６時３０分より会議室で研修会の始まりです。今年は、大学総長であり駒澤会名誉会長の田中良昭先生を講師としてお迎えし、およそ１時間の講義を頂きました。

先生が、戦争中の疎開先の小学校（現　静岡県菊川市　小笠南小学校）で、縁あって平成２０年から卒業生に贈っている「禅語にまなぶ」という言葉を、ご自身の体験を交えながら、私共にも集約してお話下さいました。

「杓底の一残水　流れを汲む千億人」
「脚下照顧」（あしもとをみつめる）
「和顔愛語」（やわらかにいとおしく）
「晴耕雨読」（いますべきことをする）
「平常無事」（いつもどおりがさいこう）

子供たちのみならず、正にいくつになっても自分自身にいいきかせるべき言葉群です。最後に、スマップの「世界に一つだけの花」(作詞作曲　槇原敬之)の歌の歌詞がとても良いとおっしゃっておられましたので、２次会のカラオケでも、皆で合唱致しました。皆様もぜひ聞いてみてください。

その後場所を移し親睦会では、おいしい会席料理とお酒をいただき、途中には抽選会も行われ、和気藹々と過ごす事が出来ました。普段ゆっくりお話の出来ない方や、遠方からご参加の方とも時間を気にすることなくお話が出来て有意義なひと時でした。

翌朝は、朝食後ホールでコーヒーを飲み、順次解散となりました。

秋の研修会に参加して

維持会員　福島県　武田 まゆみ

子どもが大学を卒業して３年。今年で福島からの「秋の研修会」の申し込みも３回目となりました。参加者の大方が役員・東京在住の皆さんの中にあって、地方からの参加者は少数です。そんな私に、皆さんはいつも「遠いところ参加してくれてありがとう」と優しい言葉を掛けてくださいます。この度も研修会の好機を得て再会できることと、総長先生の講義や懇親会等を楽しみに参加させていただきました。

さて、静岡県熱海市で行われた９月２９日からの１泊２日の研修会の中心は、田中良昭先生の講義です。「禅語に学ぶ」の題名で、終始にこやかに分かり易くお話ししてくださいました。

総長先生は、疎開先であった静岡県の南山国民学校を卒業されました。現在の菊川市立小笠南小学校です。この小学校の校長先生から「卒業生に、戦争中に体験されたことを話してください」と依頼があったそうです。これがきっかけとなって、平成２０年３月より、母校を訪れてお話をされているということでした。

このお話を聴いたとき、「ようこそ先輩」というテレビ番組を思い出しました。卒業した著名人が母校を訪れ、後輩の小学生に授業をするというものです。小笠南小学校の卒業生は、記念の年に母校の大先輩である総長先生から「禅語を学ぶ」機会をいただくわけですから、羨ましい限りです。

研修会で配布された資料の中から、教材となった禅語を紹介します。初めの年は、「杓底の一残水、流れを汲む千億人」命の大切さをモチーフにした詩で、永平寺の右の門柱の言葉だそうです。次の年からは短い禅語で、「脚下照顧」、２２年は「和顔愛語」、２３年は「晴耕雨読」、今年の３月の卒業生には「平常無事」という禅語で授業をされたそうです。

総長先生は、ご自分のその折々の思いを子ども達に学ばせたい禅語に託し、話をされておられるように感じました。授業の中で取り上げた禅語は、総長先生の直筆の色紙となって、母校の校長室に飾られているそうです。

総長先生の講義をお聴きして、私達の何気ない日常の中で、大切にしていかなければならないことが禅語に込められていると、改めて教えられました。卒業生にとっても、これからの長い人生の過程において、総長先生のこの「禅語に学ぶ」授業を折に触れ思い起こし、心の糧としていってほしいと願います。

研修会開催に当たりましては、駒澤会役員・厚生部・事務局・旅館の皆さんに大変お世話になりました。有意義な研修ができましたことを感謝すると共に、会員の皆さんのたくさんの参加を心よりお待ちしております。

会員紹介　厚生部　善竹十郎さん

善竹十郎さん　インタビュー　平成２４年１１月１日　於、善竹家

広報部員：今回、駒澤会の会報で善竹さんを紹介することになりました。いろいろとお話を伺わせて頂きますので宜しくお願いします。駒澤会との結び付は何でしたか？

善　　竹：５年ほど前に狂言を大学で紹介したことがありました。その時に出席されていた駒澤会会員の方に誘われて入会しました。厚生部に席を置いています。

広報部員：この地下の部屋は練習のための場だと思いますが、広さはどのくらいあるんですか？

善　　竹：練習用なので二間半四方です。正式の舞台は三間四方になります。

広報部員：稽古は毎日なさるのですか？

善　　竹：毎日いたします。稽古には、プロの稽古とアマチュアの稽古とがあるんですよ。

広報部員：プロとアマとでは違う稽古をしているのですか？

善　　竹：プロはいかなるときでも最高のものが演じられなければいけないのです。ゆえにプロの稽古は常に最高のものが演じられる状態を作っておくためにするのです。たとえば書家が色紙などを頼まれ場合、下書きなど致しませんね。それと同じなのです。プロは舞台でどう演じたら良いかが分かっています。パターン化されています。

広報部員：稽古に入る時の心構えについて聞かせてください。

善　　竹：先祖から伝えられたものを、後に続く人に正しく伝えられるよう心掛けています。そのために、稽古場に立つ時だけでなく日々の健康管理には一番気を使っています。

広報部員：学ぶ上での大事なこと、心構えはどうあるべきですか。

善　　竹：しっかり基本の型を学び、それから応用できるようにすることです。基本の型を【本型】と言い、本型を応用することを【替えの型】と言いますが、替えと言うのはワンパターンではないという意味です。【真・行・草】と言う言葉があります。書道で真は楷書、行は行書、草は草書のことですけど、能や狂言では稽古順を表しています。稽古は、最初は楷書のようにカチッとやることから始めるわけです。師匠の言われた通りに真似る段階のことです。

広報部員：武道などでは【守破離】とよく言う様ですが。

善　　竹：守というのは、型をしっかり守るということですね。徹底的にそれをやって、その後で出来上がった殻を破る。そして最後は型に捉われない自由自在な動き、心境に向かってゆく。

広報部員：心の欲する所に従って矩をこえずということですね。

善　　竹：演ずる場合、【序破急】ということが非常に大切です。序は動きだす時の様（さま）で、ゆっくりと、しかし最も力、エネルギーが込められた状態を言います。蒸気機関車が動き出す時のゆっくりだが力強い様（さま）は【序】ですね。そして次第に速度（テンポ）を増してゆき【破】、軽快なテンポ・リズムで走って最後は速度を落としてゆく【急】。これは芸事だけでなく、人の日常の生活にも繋がることだと思います。

会員紹介　厚生部　善竹十郎さん

広報部員：修行の途中で辞めたいと思われたことなどありますか。
善　　竹：それは始終ありましたよ。叱られるばかりでしたから。でも、褒められなかったのは「決して自惚れることの無いように」という配慮だったんですね。自分も弟子を持った最初の頃は叱ってばかりいました。今はそれとなく褒めるようにしています。モチベーションを高めるため、他の人の感想などを語って悟らせるような方法を採っています。
広報部員：息子さんが駒澤大学を卒業されたのですね。
善　　竹：次男が文学部卒です。源氏物語などを研究しました。それでも、私の方が詳しいです。（笑）
広報部員：能と狂言の動きは同じなのですか？
善　　竹：足の運びが全く同じというわけではないです。能は言ってみればミュージカルです。足の運びが重いです。狂言はコメディーで少人数で演じ、足の運びは軽く軽微です。
広報部員：違う演じ方をしているんですね。
善　　竹：足の動きだけ見て、役者が誰か分かります。
広報部員：合気道創始者の植芝盛平翁の足捌きは能の歩みだと言われました。
善　　竹：能・狂言の足の運びは摺足といいます。日本は農耕民族ですから【大地と繋がっているという意識】から地に二本足をしっかりつけたんでしょうね。日本民族に適合した歩みとなりました。
広報部員：善竹さんは【重要無形文化財指定保持者】だと伺いました。つまり人間国宝でいらっしゃいますか？
善　　竹：人間国宝じゃありません。重要無形文化財には（総合）指定保持者と（各個）指定保持者の二つがあって、人間国宝は後者の方です。
広報部員：成程。すると、人間国宝の予備軍ということでしょうか。（笑）
善　　竹：狂言は生涯現役でいられます。有難いことだと思っています。生涯修行。慢心は許されません。
広報部員：今日は長い時間を割いて頂き有難うございました。

会員紹介「今、闘病生活にあって」

維持会員　愛知県　酒井 誠

私は平成２３年に駒澤会に入会いたしました愛知県は刈谷市の酒井でございます。夫婦でお世話になっております。とはいえ、何もできません。色々とイベントがありますが、なかなかご一緒することができません。一緒にさせていただいている時は、みなさん良くしていただき大変喜んでおります。

現在、実を言えば、闘病生活にあります。それは３年前に遡ります。血液のガン、悪性リンパ腫になってしまったのです。忘れもしません、私の５６歳の誕生日に入院でした。まさか自分がこんな病気になるなんて、それが正直な気持ちでした。仕事は休職、職場の理解があり助かりました。

２ヶ月ほど入院、その後通院療養生活が１年ほど続き、その後職場復帰を果たしました。しかしながら以前の仕事はできません。私は老人福祉施設の介護の仕事をしておりました。現場です。医師から感染症などの免疫の問題があるので、現場は避けてくださいということでした。職場の理解があり、事務関係の仕事をさせていただきました。しかし２３年末より体調がすぐれず家業のこともあり、仕事をやめました。そうこうしているうちに、初夏ごろ病気の再発！そして現在治療中ですが、どうも状態がよくありません。一旦はよくなってきていましたが、またまた悪い細胞が増殖し始めました。

今痛さを我慢して先生から今後の治療をどうするのかのお話を待っているところです。今こうして原稿を書いていても痛いです。両親の介護、家業の継承の問題、子供たちのこれから（まだ独身で社会人としてひとり立ちはまだできていません)、自分はどうなってしまうのか。父親も入院、自分もまた入院の可能性大。どうすべきか、途方にくれています。なにも手に付かない。そんなわたしですが、駒澤会の会員としてなにかお役に立てればと思います。会員のみなさん、一生懸命頑張ってこられた方たちばかりなのに、私の会員紹介なんてお恥ずかしい限りです。とにかく頑張ります。またみなさんと元気にお会いする日を楽しみにしています。

写真を提供します。今年４月に亡くなってしまいましたが、愛犬テディです。今は愛犬ショコラがいます。夫婦二人の写真はもっとかなり前のものです。女房は今ではもっとスリムですね。よろしく。

酒井さんご夫婦

可愛がっていた愛犬テディ

各部入部のお誘い

維持会員の皆様へ

駒澤会では、維持会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。会の運営を３つの部に分かれて担当して頂くことになりますが、近郊の方又は遠方でも２～３カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：田村までご一報ください。

ＴＥＬ：０３－３４１８－９１８９　　ＦＡＸ：０３－３４１８－９１９０

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やＰＲ活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事や企画の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所など考え活動しています。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	４月～１１月までの利金	備　考
三菱ＵＦＪモルガンスタンレー証券	６７５，３０４円	グロソブ（毎月決算型）
みずほ銀行	１９，０６６円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	１０，９２１円	定期・普通預金利息
合　　計	７０５，２９１円	

基金管理委員長

事務局からのお知らせ

●平成２４年度維持会費未納の方へ
維持会費５，０００円の振込用紙を紛失された方は、事務局までご連絡下さい。なお、賛助会員への変更を希望されている場合もお申し出下さい。
ＴＥＬ　０３－３４１８－９１８９

●ぎふ清流国体・成年男子ボクシング競技が１０月４日～１０月８日、岐阜産業会館で行われ、ライトフライ級の田中亮明（商１）、ミドル級の濱崎良太（禅４）の両名が優勝しました。３位にも２名入賞し、さらなる活躍が期待できます。

大学行事予定
１２月２７日～１月５日
　冬期休業（全学休業）
２月４日～８日
　２月一般入学試験
３月７日
　３月一般入学試験
３月２５日
　卒業式

駒澤会行事予定
１月２６日
　役員会
２月１７日
　駒澤会新年賀詞交歓会
　※案内を同封しております。多数のご参加をお待ちしております
３月１２日
　役員会

駒澤会だより　第18号

発行日：平成24年12月19日
発行者：駒澤大学駒澤会　広報部
154－8525　世田谷区駒沢 1-23-1
TEL：03－3418－9189
FAX：03－3418－9190

駒澤会ホームページ＜駒澤大学ＨＰより＞
http://www.komazawa-u.ac.jp
→　在校生父母の方　～　駒澤会クリック

編集後記

今年は異常気象が続き何だかおかしい。
心が寒々とするニュースが相次いでいる。
我子への虐待・いじめ・些細なことで人を刺す、心がささくれているとしか思えない。
１００歳以上の高齢者が行方不明という事態、年代的にも激動の時代を生き抜いてきた方々が何年も、時には数十年も音信不通とは・・・。
色々な事情もあるだろうが、家族って何？と問いたくなる。
そんな時、すぎもとまさとさんが歌う「吾亦紅」が浮かぶ、どこかさびしげな晩秋の花である。
墓碑の傍らで、山から吹き下ろす風に揺れている吾亦紅の花に、母親のひそかに咲いた人生を重ねている。（髪に白髪が混じり始めても俺死ぬまであなたの子供）歌はそう結ばれている。
親が子を思い、子が親を思う、心をよせる情愛はどこに・・・。
時代の変遷が人の心を変えてしまうのかもしれない。
携帯電話の“つながりっぱなし”の文化
親指ひとつで、さっき別れた人にメールが送れる。
すぐに返信が来る、別離も孤独も奪ってしまう。
便利ではあるが、つながっていないと不安という弊害も生んでしまう。携帯電話のない時代に青春期を過ごせたことを幸せに思う時がある。
友との別れ、恋人との別れにむせび泣いたあの頃・・・。
私にもあったのです本当に可愛いい時が・・・。
皆さんも秋の夜長、若かりし頃に浸って見るのもいいかもしれませんよ。
これからも魅力ある広報誌作りを目指し頑張りたいと思っています。
そして、諸先輩方が何年もの間大切に育んで下さった駒澤会を、教育後援会の若くて魅力溢れる皆様方に入会していただき、益々活気あふれる会をめざし精進して行きたいと思っております。

（広報部　露木記）

駒澤大学
駒澤会